

総論

第1章 総合計画の策定にあたって

第2章 町のすがた

第3章 関連する計画

第1章 総合計画の策定にあたって

① 計画策定の趣旨

本町は、平成19年度から平成28年度までの10年間を計画期間とする第1次南越前町総合計画に基づき、総合的かつ計画的にまちづくりを進めてきました。

しかしながら、前回の総合計画づくりから7年が経過し、推計を超える人口減少や少子高齢化の進行、社会経済情勢の変化、地方財政危機等、第1次総合計画の目標年次を前に本町を取り巻く社会情勢は策定当時想定した以上に大きく変化しています。

これら社会情勢の変化に的確に対応するとともに、将来にわたり活力のある豊かなまちづくりを目指して、当初予定していた計画期間を2年前倒して、第2次南越前町総合計画を策定することとしました。

本町のこれからのまちづくりの最も基本となる計画として、第1次南越前町総合計画の基本理念を継承し、「住んで良かった」「これからも住み続けたい」南越前町を住民のみなさんとともに創り続けていきます。

② 計画の名称

この計画の名称は「第2次南越前町総合計画」とします。



③ 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」により構成しています。

基本構想⇒基本計画⇒実施計画⇒予算編成方針⇒事業実施の順で、より具体的な取り組み内容となります。

基本構想 第1次南越前町総合計画の基本理念を継承し、地域発展に向けた指針と、真に豊かなふるさと「南越前町」の実現に必要な将来像を示します。

【計画期間】

10年／平成27年度(西暦2015年)～平成36年度(西暦2024年)

基本計画 基本構想に定めた将来像を実現するため、6つの基本目標ごとに体系的に施策を示し、「計画達成のために取り組むこと」を定めます。

【計画期間】

前期基本計画…平成27(2015)年度から平成31(2019)年度まで

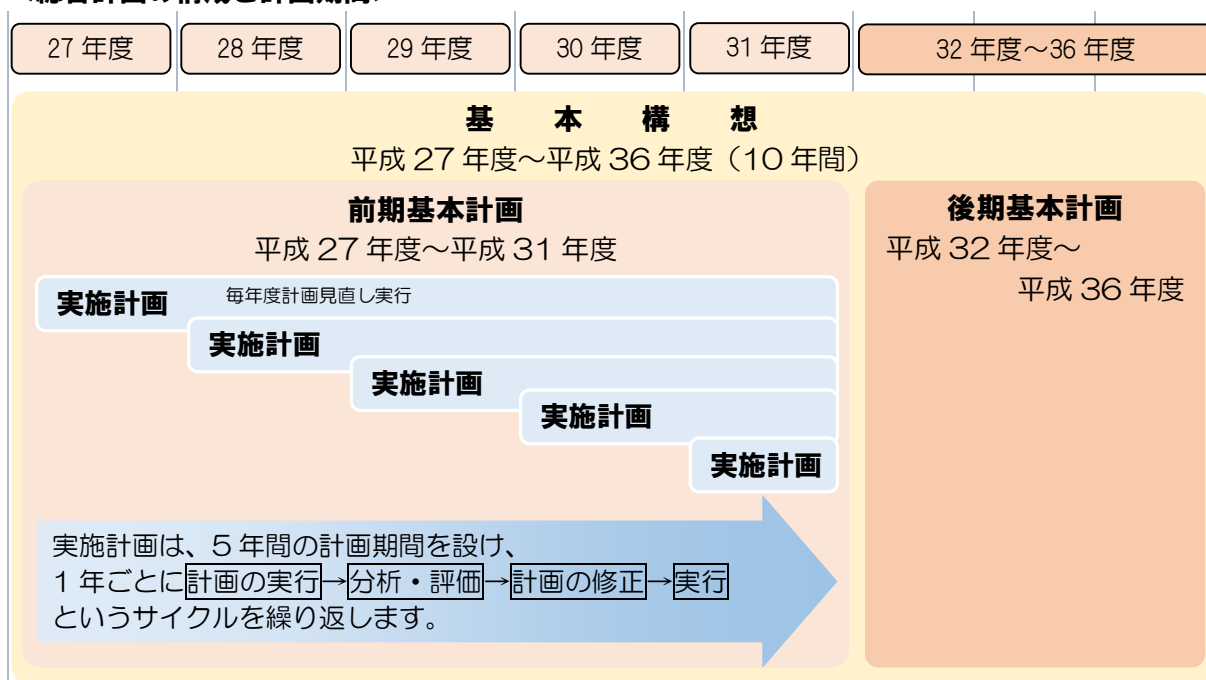
後期基本計画…平成32(2020)年度から平成36(2024)年度まで

実施計画 基本目標を実現するために、具体的な事業を示します。

【計画期間】

5年間の計画期間を設け、1年ごとに「計画の実行→分析・評価→計画の修正→実行」というサイクルを繰り返します。

<総合計画の構成と計画期間>



第2章 町のすがた

① 地勢

位置・地勢

南越前町の位置（東経136°12′ 北緯35°50′）

本町は、福井県のほぼ中央、嶺北地域の南端に位置し、北は越前市、越前町と池田町、東および南は岐阜県・滋賀県、西は敦賀市と日本海に接する山・海・里の地形の変化に富んだ自然豊かな町です。

町土面積は福井県全体の8.2%にあたる343.69km²を有します。

地形は極めて急峻であり、総面積の約92%が山林で占められ、海岸部は標高差200～300m平均斜度35度の甲楽城断層と呼ばれる断層海岸ですが、冬は「越前加賀海岸国定公園」にも指定されている海岸線一帯に、越前水仙の可憐で清楚な花が咲き誇ります。

また、田倉川や鹿蒜川などが合流した日野川が町の中央を南北に流れ、河川沿いに田園風景が広がります。

気 候

気候は平野部と山間部、海岸部とで大きく異なります。平野部は内陸型で比較的温かいのですが、山間部は寒暖の差が激しく、県下有数の多雪地帯で、昭和51年には特別豪雪地帯（今庄地域のみ）に指定されています。

一方海岸部では、対馬海流の影響により温暖な気候で、積雪量はほとんどありません。



たくらかまくらまつり（リトリートたくら）



夏の海水浴（甲楽城海水浴場）

交通

交通条件については、県内の同規模の町と比較しても比較的優位な条件を具備しています。

道路は、北陸自動車道や国道8号、国道365号といった北陸地方と関西・中京方面を結ぶ動脈となる道路が町の南北を縦走し、北陸自動車道今庄インターチェンジ、南条スマートインターチェンジおよび南条サービスエリアが設置されており、周辺地域への広域高速交通の利便性が確保されています。

福井県の嶺北地方と嶺南地方を結ぶ国道476号は、本町と敦賀市を結ぶ木ノ芽峠トンネルが平成16年3月に開通したことから、嶺南地域との交通の利便性が飛躍的に向上しました。さらに平成26年7月に全線開通した舞鶴若狭自動車道による関西方面との交流の活発化が期待されます。

国道305号は、合併後の町の最重要施策であったホノケ山トンネルが平成25年11月に開通したことから、町内の道路ネットワークが向上し、北陸自動車道今庄インターチェンジや南条スマートインターチェンジと越前海岸とのアクセスが飛躍的に向上しました。ホノケ山トンネルの開通は地域間の連携をさらに深めるとともに、行政運営、観光、産業の振興、そして地域防災などさまざまな面において大きく寄与するものと期待されます。

また、越前加賀海岸国定公園に指定されている海岸線に沿って、主に観光道路として利用されている越前・河野しおかぜラインが、国道305号や県道大谷杉津線と連絡し、敦賀市との間を結んでいます。

越前加賀海岸国定公園（延長：108km／全体面積：9,794ha）…面積は福井県ホームページより
石川県加賀市から福井県敦賀市までの海岸線を中心に指定された国定公園で、甲楽城断層を境とした隆起海岸のため、海蝕崖や奇岩が多く見られます。



町内主要道路・鉄道図

鉄道は、ＪＲ北陸本線が幹線道路同様に南北に縦走し、町内には南条、湯尾、今庄、南今庄の４駅が設置され、福井市・越前市方面や敦賀市方面に向かう通勤通学をはじめとする日常生活に欠かせない役割を果たしています。

路線バスは、河野地域と越前市を結ぶ民間の路線バスが運行されています。

また、地域内における公共交通として、住民利用バスを６路線、今庄地域と南条地域を結ぶ地域間連絡バスを町営で運行しています。



地域公共交通網図（路線バスを含む）／南越前町ホームページ（２０１４年４月１日更新）より
※施設管理者が運行している施設利用者専用の送迎バスは除外しています。

その他の社会的条件

特筆すべき本町の社会的条件としては、「原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法」において、原子力発電施設等立地地域に指定されています。これらを踏まえたうえで、災害対策基本法および原子力災害対策特別措置法に基づき南越前町地域防災計画〈原子力災害対策編〉を策定し、総合的かつ計画的な原子力防災事務または業務の遂行によって住民の生命、身体および財産を原子力災害から保護するように努めています。

② 歴史とあゆみ

歴史

平安時代に敦賀から木ノ芽峠を越える「北陸道」が開かれ、近世には栃ノ木峠越えの「北国街道」が整備されるなど、都と北陸を結ぶ陸路の玄関口でした。

南北朝時代には杣山に「瓜生保（うりゅう たもつ）」が居城するなど戦略上の要衝であったとともに、今庄や鯖波、脇本には本陣が置かれるなど宿場町としても賑わいました。

また、海路は中世に敦賀湊と河野浦などが結ばれ、江戸時代中期から明治時代中期にかけ、蝦夷地（北海道）をはじめとした日本海諸港と瀬戸内・大阪を西廻り航路で往来した「北前船」によって、廻船業が栄えました。

明治19年に、白崎村から春日野トンネルを経て具谷、大谷を抜け、当時の敦賀郡旧東浦村に通じる旧国道8号である春日野道が完工され、それまで嶺北と嶺南の分水嶺であった木ノ芽峠に代わり、両地域の交流の主軸となりました。

明治29年には、町の中央の日野川に沿うように国鉄北陸本線が開通し、今庄駅には機関区が置かれ、「鉄道のまち」として賑わいをみせましたが、昭和37年の北陸トンネルの開通と複線電化により、今庄機関区はその役割を終えました。

昭和43年には、河野海岸線一帯が「越前加賀海岸国定公園」に指定されるなど、風光明媚な海岸線と、越前ガニや越前水仙などを求めて多くの観光客が訪れるようになりました。

昭和52年12月に北陸自動車道が開通し、福井県内で唯一、南条サービスエリアが設置されるとともに今庄インターチェンジが開設され、地域経済の発展や余暇活動の活発化などに影響を与えました。

昭和60年には杣山荘、平成2年には、今庄365スキー場がオープン、次いで今庄サイクリングターミナルの改築や今庄365温泉やすらぎ、花はす公園が完成し、観光客が飛躍的に増加しました。

平成6年には道の駅河野が開設され、翌平成7年には杣山荘が花はす温泉「そまやま」としてリニューアルしています。



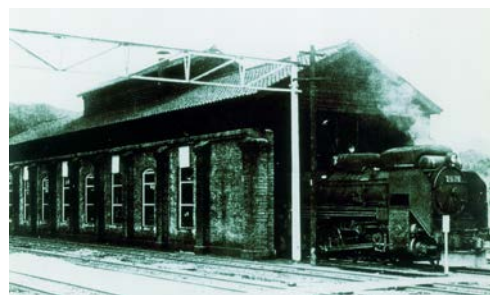
木ノ芽峠茶屋



今庄宿の面影を残す町並み



西廻り航路で往来した北前船



旧国鉄 今庄機関区



南条サービスエリア

あゆみ

市町村合併の変遷は、明治22年、市制町村制の制定により、現在の南越前町を構成することになる南日野村、北杣山村、南杣山村、湯尾村、宅良村、今庄村、鹿蒜村、堺（鹿見）村、河野村が誕生しました。

その後、昭和26年に今庄村と鹿蒜村が合併し今庄村となり、昭和29年には南日野村、北杣山村、南杣山村の3村が合併し南条村が誕生しました。

昭和30年には湯尾村、宅良村、今庄村、堺村の4村が合併し今庄町となり、南条村は昭和39年に町制を施行し、南条町となりました。

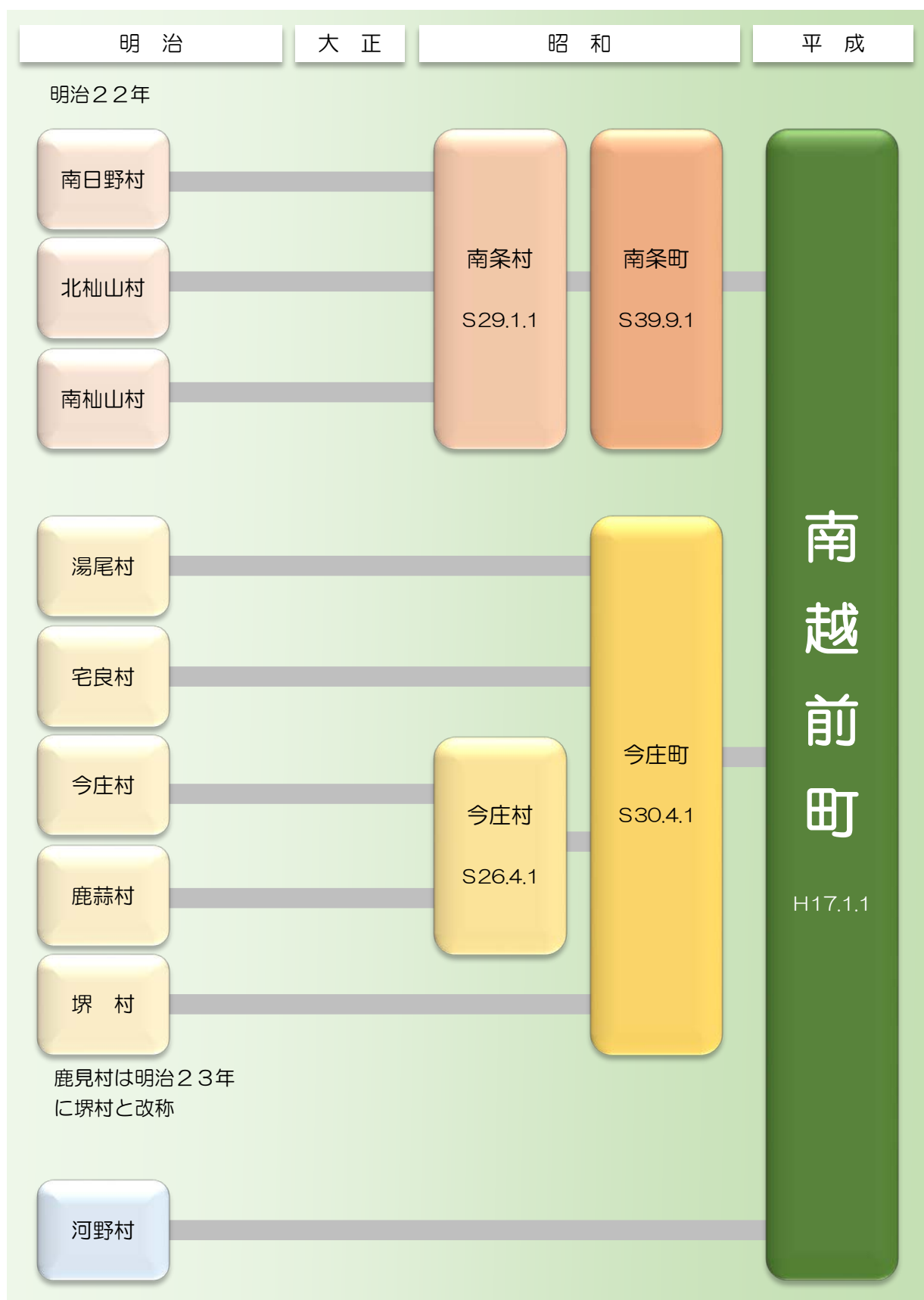
平成17年1月、南条町、今庄町、河野村が合併し、「南越前町」が誕生しました。

そして、平成27年1月1日、南越前町の誕生から10年という大きな節目を迎えました。

<南越前町の誕生から10年の歩み>

平成17年	1月 1日	南越前町誕生
	1月 9日	南越前消防団発足
	2月13日	初代町長に増澤善和氏就任
	4月10日	南越前町誕生記念式典挙行
	9月 2日	榎谷ダム完成
	11月24日	岐阜県羽島市と友好提携盟約調印
	12月13日	記録的大雪（着雪による倒木被害多数ほか）
平成18年	1月31日	河野小学校耐震大規模改造工事完成
	3月19日	町民指標発表（第1回南越前町まちづくり大会）
平成19年	3月20日	第1次南越前町総合計画策定
	4月 9日	河野小学校体育館落成
	7月 3日	皇太子殿下ご来町「北前船主の館 右近家」ご視察
	8月29日	今庄小学校落成
平成20年	4月26日	南越前ダイビングパーク完成
平成21年	2月13日	第二代町長に川野順万氏就任
	3月23日	今庄なないろこども園落成
	6月 5日	ホノケ山トンネル工事着工
	12月 1日	南越前町ケーブルテレビ地上デジタル放送開始
平成22年	3月 5日	南条中学校耐震大規模改造工事完成
	3月28日	南条スマートインターチェンジ上り下り双方向供用開始
平成23年	1月31日	観測史上最大の積雪を観測 今庄地区最深積雪244cm
	3月 3日	今庄中学校耐震大規模改造工事完成
平成24年	2月29日	役場庁舎別館耐震大規模改造工事完成
	3月16日	桜町町営住宅完成
	3月16日	河野中学校耐震大規模改造工事完成
	3月31日	河野児童館落成
	12月 5日	湯尾小学校耐震大規模改造工事完成
平成25年	2月13日	川野順万氏町長再選
	2月15日	役場庁舎本館耐震大規模改造工事完成
	11月 4日	ホノケ山トンネル開通
平成26年	10月26日	南越前町合併10周年記念式典挙行

<町村合併の経緯>

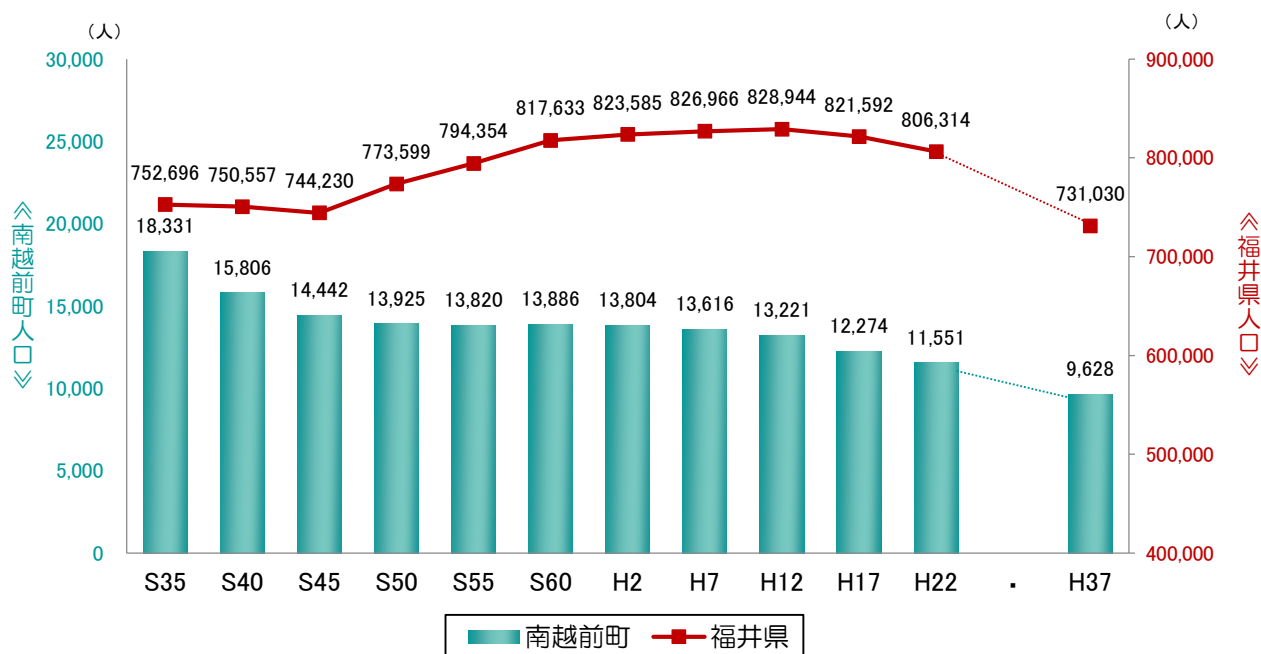


③ 人口・世帯

人口の推移

平成22年10月1日現在の国勢調査によると総人口は11,551人で、福井県の人口の1.4%を占めています。昭和35年ピーク時点の人口18,331人と比べて50年間で6,780人、37%減少しており、現在のペースで推移した場合、平成37年には9,628人になると推計されています。

<人口の推移>



※平成37年は国立社会保障・人口問題研究所による推計値

資料：国勢調査

<人口動態の推移>

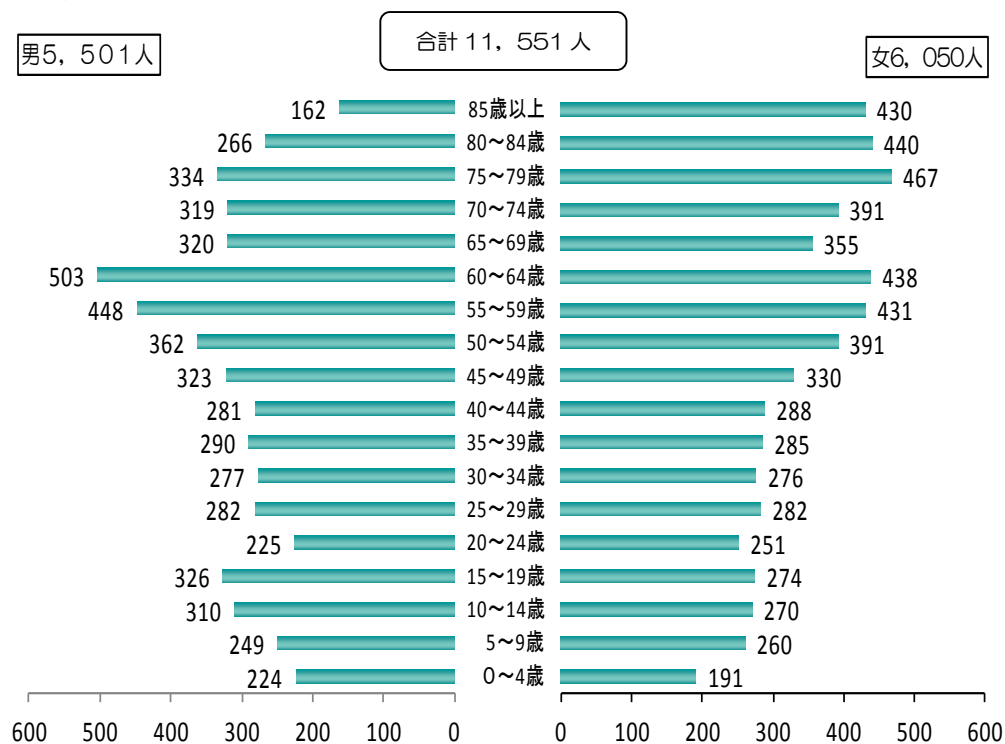
項目		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
自然動態	出生	76	79	100	73	76
	死亡	170	154	177	152	180
	増減	△ 94	△ 75	△ 77	△ 79	△ 104
社会動態	転入	254	240	258	272	223
	転出	310	293	331	366	323
	増減	△ 56	△ 53	△ 73	△ 94	△ 100
差引増減		△ 150	△ 128	△ 150	△ 173	△ 204

資料：福井県統計年鑑(各年10～9月)

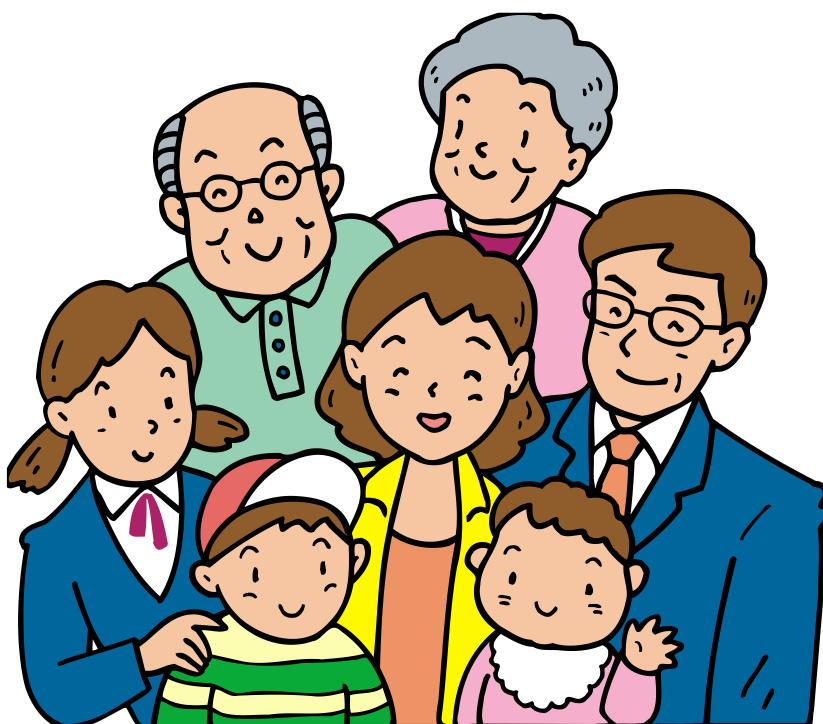
年齢構成

平成22年10月1日現在の国勢調査による年齢5歳階級別の男女別人口構成をみると、男性では60歳～64歳、女性では75歳～79歳を頂点としてつぼ型の分布となっており、中でも20歳～44歳のいわゆる子育て世代や0歳～9歳の子どもの数が少なくなっています。

<年齢構成>



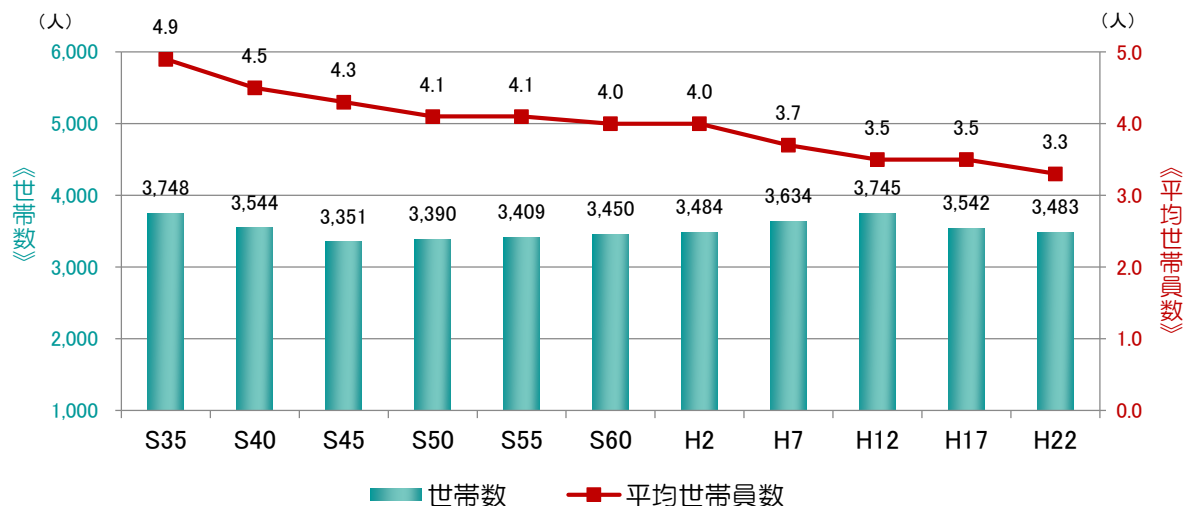
資料：国勢調査



世帯数等の推移

平成22年10月1日現在の国勢調査によると世帯数は3,483世帯で、昭和45年から平成12年まで増加していましたが、その後減少傾向にあります。平均世帯人員は昭和35年の4.9人から、平成22年には3.3人と年々減少しており、核家族化が進んでいます。

<世帯数・平均世帯員数の推移>



資料：国勢調査

<人口・世帯等の推移>

項 目		昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
人口 (人)	南越前町	13,886	13,804	13,616	13,221	12,274	11,551
	うち男性	6,695	6,628	6,555	6,437	5,850	5,501
	うち女性	7,191	7,176	7,061	6,784	6,424	6,050
	福井県	817,633	823,585	826,966	828,944	821,592	806,314
人口密度(人/km ²)		40.4	40.1	39.6	38.5	35.7	33.6
年齢別 人口 (人)	年少人口 0～14 歳	2,831 (20.4%)	2,608 (18.9%)	2,355 (17.3%)	2,031 (15.4%)	1,754 (14.3%)	1,504 (13.0%)
	生産年齢人口 15 歳～64 歳	8,845 (63.7%)	8,675 (62.8%)	8,236 (60.5%)	7,750 (58.6%)	6,968 (56.8%)	6,563 (56.8%)
	高齢人口 65 歳以上	2,210 (15.9%)	2,521 (18.3%)	3,025 (22.2%)	3,440 (26.0%)	3,552 (28.9%)	3,484 (30.2%)
世帯数	南越前町(世帯)	3,450	3,484	3,634	3,745	3,542	3,483
	平均世帯人員	4.0	4.0	3.7	3.5	3.5	3.3
就業 人口 (人)	第 1 次産業 (農業・林業・水産業)	1,172 (15.3%)	933 (12.3%)	868 (11.7%)	506 (7.4%)	494 (8.0%)	406 (7.0%)
	第 2 次産業 (鉱業・建設業・製造業)	3,340 (43.6%)	3,496 (46.0%)	3,240 (43.5%)	3,007 (43.7%)	2,376 (38.5%)	2,014 (34.9%)
	第 3 次産業 (※1)	3,141 (41.0%)	3,169 (41.7%)	3,333 (44.8%)	3,361 (48.9%)	3,296 (53.4%)	3,299 (57.2%)
	分類不能	2 (0.1%)			1 (0.0%)	10 (0.1%)	52 (0.9%)

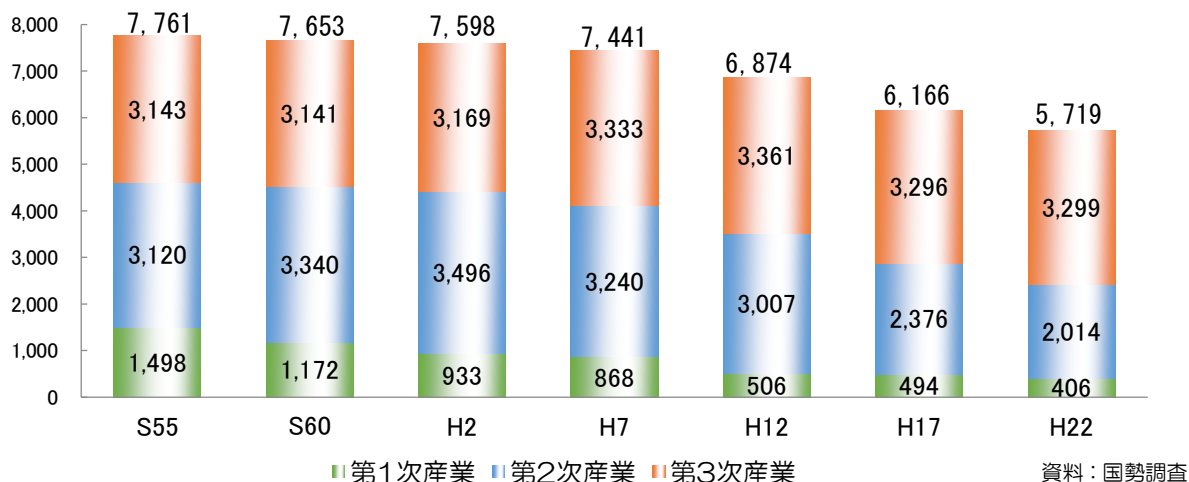
※1…電気・ガス・水道業、情報通信業、運輸郵便業、卸売小売業、金融・保険業、不動産業、各種サービス業、教育、公務等

資料：国勢調査

産業別就業人口の推移

経済の国際化が進み、日本の産業構造は大きく変化してきている中、本町の基幹産業である第1次産業をはじめとして、経営基盤の脆弱な中小企業を中心とした第2次産業、小売業がほとんどで商業集積度が低い第3次産業のいずれも、労働者の高齢化・後継者不足によって衰退傾向にあります。

平成22年10月1日現在の国勢調査によると、本町では5,719人が就業しており、第1次産業人口が7.0%、第2次産業人口が34.9%、第3次産業人口が57.2%を占めています。昭和55年を100とすると、全体では74と減少しており、その中でも第1次産業は27、第2次産業は65と減少しています。しかし、第3次産業は105と増加しています。



第1次産業のうち、農業は町の中央を南北に流れる日野川沿いの両岸に圃場整備された田園が広がり、稲作を中心に「花はす」や「そば」などが栽培されているほか、海岸部においては稲作に代わる振興作物として「梅」、「水仙」が栽培されています。

しかし、山間部における農地の集約、集団化が難しいことや担い手の高齢化等のため、農業産出額の減少傾向が続いています。また、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）をはじめとする自由貿易体制への移行の影響についても注視されています。

一方で、屋内施設で無農薬の野菜を育てる植物工場ビジネスへの取り組みとして、空き工場を活用した植物工場を県外より誘致し、葉物野菜の生産出荷を行い、新たな雇用の創出にもつながっています。

林業は、町土の約9割を占める山林で優良材の杉やヒノキが生産されていますが、近年の木材価格の低迷と林家の高齢化により森林管理が困難になっています。

水産業は、定置網漁業が中心になっていますが、漁獲量が不安定であることに加え、価格が市場の影響を受けやすいなどの問題を抱えています。

第2次産業については、工業団地を整備し数社の企業誘致に取り組んできましたが、依然、建設業の占める割合が高くなっています。

工業は、北陸自動車道今庄インターチェンジや南条スマートインターチェンジを中心に複数の企業が立地していますが、事業所のほとんどが小規模で、社会情勢の動向に左右されやすい不安定要素を含み、厳しい環境の中で各企業の自助努力によって経営されています。

第3次産業のうち商業については、商業集積度が低いことに加え、近年の消費者ニーズの多様化や近隣市への大型量販店の進出が背景にあり、1店舗あたりの販売額は全県平均と比べ小規模となっています。

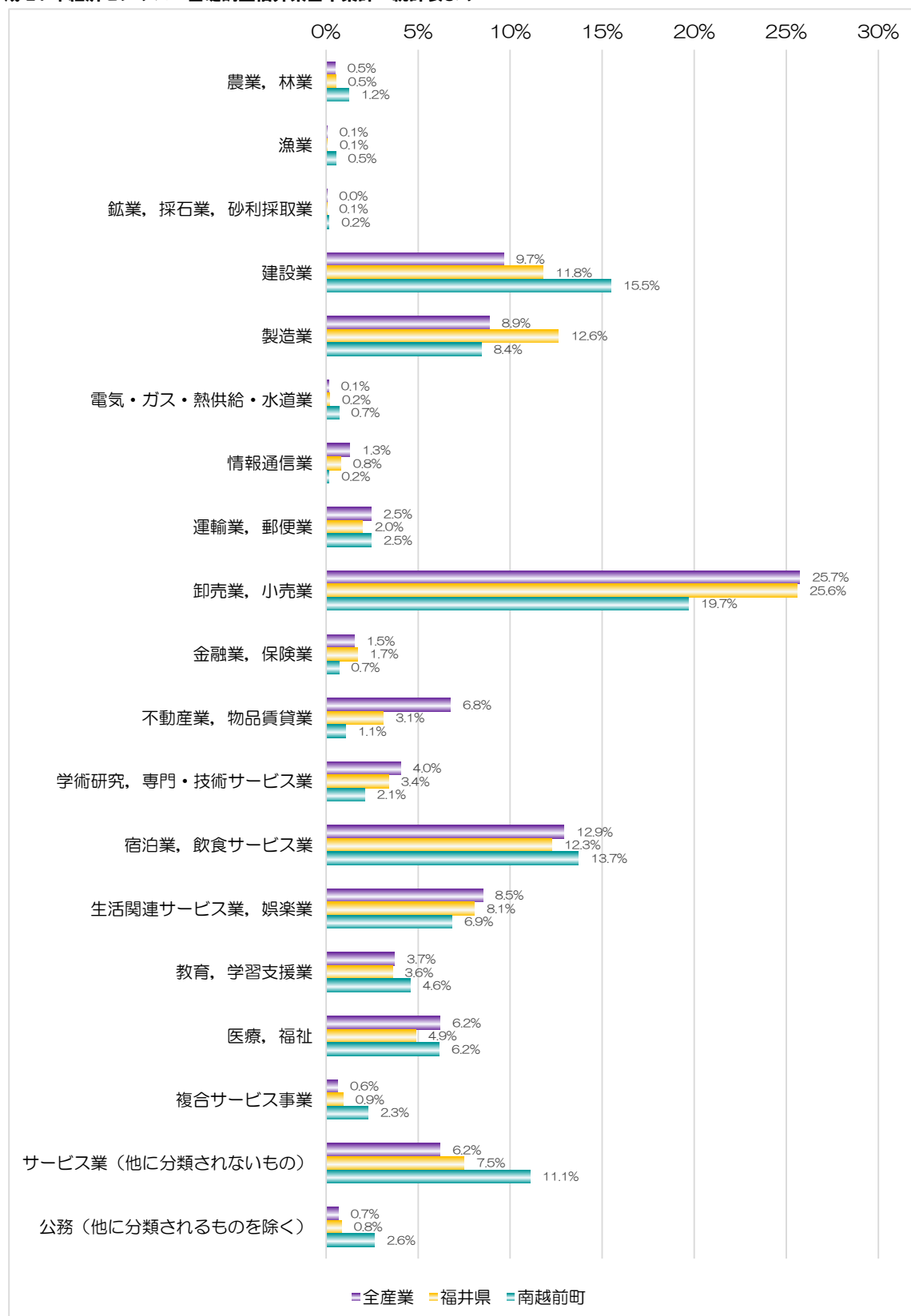
観光産業については、近年、観光・レジャーの多様化などの社会的要因や、地球規模の温暖化などの自然環境的要因によって、観光客は減少しています。

産業大分類別事業所数の全事業に占める割合では、全国および福井県と比べて、「農林漁業」や「建設業」、「宿泊業・飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの※）」の割合が高くなっています。また、「医療、福祉」が町内の全産業に占める事業所数の割合（6.2%）は、福井県内で1番高いまちとなっています。

※「サービス業（他に分類されないもの）」の中には、自動車整備業、機械等修理業などの事業所が含まれます。

<産業大分類別事業所数の全事業に占める割合>

平成 21 年経済センサス・基礎調査福井県基本集計 統計表より



＜農業の推移＞

項目		平成 17 年 (農林業センサス)	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年 (農林業センサス)	平成 23 年	平成 24 年
農業就業人口（販売農家） （人）		905			587		
地目別 面積	田（ha）	1,037	1,027	1,025	1,022	1,008	1,006
	畑（ha）	149	148	147	146	147	146
水稻	作付面積（ha）	719	684	672	673	656	652
	収穫量（t）	3,370	3,340	3,130	3,230	3,200	3,100

資料：福井県統計年鑑

＜製造業事業所数、従事者数、製造品出荷額＞

項目	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
製造業事業所数	31	29	27	26	22	23
製造業従事者数（人）	650	652	611	593	593	608
製造品出荷額（百万円）	14,818	13,335	11,128	11,028	9,756	9,505

資料：政府統計の総合窓口（都道府県・市区町村のすがた）、H23・24 工業統計調査

＜商業事業所数、従事者数、商業年間商品販売額＞

項目	平成 11 年	平成 14 年	平成 16 年	平成 19 年	平成 24 年
商業事業所数	158	148	132	118	89
商業従事者数	484	495	457	626	325

資料：政府統計の総合窓口（都道府県・市区町村のすがた）、H24 商業統計調査

第3章 関連する計画

総合計画の施策を着実に推進するため、総合計画との整合性に配慮し、各分野において次の関連計画が策定され、実施しています。

＜関連する計画＞

計画名	策定年度	計画期間
南越前町地域防災計画	H18（H26修正）	
南越前町国民保護計画	H18	
南越前町災害時要援護者避難支援計画	H20	
南越前町まちづくり計画	H16（H26更新）	H17～H31
南越前町過疎地域自立促進計画	H22	H23～H27
南越前町地域公共交通計画	H24	H25～H27
南越前町情報化基本構想	H24	H25～H29
南越前町地域福祉計画	H22	H23～H27
南越前町健康増進計画	H22	H23～H27
第2次南越前町障害者計画	H23	H24～H29
第4期南越前町障害福祉計画	H26	H27～H29
南越前町高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画	H26	H27～H29
南越前町子ども・子育て支援事業計画	H26	H27～H31
南越前町田園環境整備マスタープラン	H17	H17～
南越前町農業経営基盤の強化に関する基本構想	H18（H26更新）	
南越前町水田農業ビジョン	H22 策定	H22～H27
南越前町鳥獣被害防止計画	H22（H26更新）	H26～H27
南越前町森林整備計画	H22（H23更新）	H23～H34
南越前町地産地消推進計画	H23	H23～H27
南越前町農業振興地域整備計画	H25	H25～H34
南越前町建築物耐震改修促進計画	H19	H19～H27
南越前町環境基本計画	H21	H22～H29
南越前町地球温暖化対策実行計画	H21	H22～H29
南越前町無雪化計画	H21	
南越前町水道ビジョン	H21	H23～H32
南越前町公営住宅等長寿命化計画	H23	H24～H33
南越前町橋梁長寿命化修繕計画	H25	
南越前町道路除雪基本計画	毎年策定	
南越前町男女共同参画計画	H18	H19～H28

「高齢化って本当に悪いじゃない?」

今庄中学校三年 堀井 駿

僕の住む町、南越前町は緑豊かでのどかな町です。とてもいい町ですが、南越前町は田舎なので建物はとても少ないです。そのため、多くの若い人たちは、もっと多くの建物が立ち並ぶ市や街、または県外へ行ってしまいます。その影響で、南越前町民の多くはお年寄りです。つまり、この町では高齢化がとても進んでいるのです。

高齢化が進むのは悪いことだと考えている人がほとんどですが、僕は高齢化が進んでよかったこともあるのではないかと思うのです。それは、南越前町の雰囲気がとても柔らかくなったことです。そう思ったのは、ある体験があったからです。

ある日、僕は自転車で友だちの家に遊びに行きました。友だちの家までの道のりを自転車で走っていると、前方に若い女の人が見えました。僕はすれ違うときに「こんにちは」とあいさつをしました。すると、その女の人は「こんにちは…」と、少し困った様子で元氣のないあいさつを返してきて、僕はなんだかさみしい気持ちになりました。それからもうしばらく自転車をこいでいると、今度は、前方に六十代から七十代あたりのおばあちゃんが見えました。僕はさっきの気持ちを引きずりながらも「こんにちは…」とあいさつをしました。すると、おばあちゃんは笑顔で僕の

ほうを見ながら「こんにちは…」とおばあちゃんらしいゆったりしたあいさつを返してくれました。

僕はそのとき、なんだかほっこりした気持ちになりました。そして今度は帰り道に会った二人のおばあちゃんも、笑顔で「こんにちは」「おかえり」などとあいさつをしてくれて、僕はとても心が温かくなりました。このような感覚は高齢化が進んでいる地域特有のものだと思います。東京や、大阪などの若い人たちがたくさんいるところでは、なかなか味わえません。さらに、このゆったりとしたあいさつなどによって、僕の住む南越前町は雰囲気までもがとても朗らかであると思います。このような点に関して、僕は高齢化が進んでよかったのではないかと思うのです。

ここまで聞いた人は、もしかすると僕が、「若い人は東京や大阪などに好きに行つていいよ」と言っているように聞こえるかもしれません。でも、僕はそんなことを言っている気はみじんもありません。若い人は、ここに残るべきだと思います。この町のお年寄りたちが築いてくれた、この温かい雰囲気を保つていくために。若い人たちがここで年をとり、おじいちゃんおばあちゃんになるならば、自然とこの雰囲気は受け継がれていくのです。

僕は南越前町にとどまって、年をとり、このほっこりした安心できる雰囲気を受け継ぎたいと思います。



未来の南越前町（河野小学校 6年 川地悠木さん）